I-13

施療院付属寺院の基本構成について
ーカンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査（35）ー
On the Composition of *Arogayasala* along the Royal Road
-A study of Royal Road, Bridge and *Dharmaçala* in Angkor period（35）-

○小島陽子[1]，　片桐正夫[2]
Yoko Kojima[1]，　Masao Katagiri[2]

Abstract ; Five main roads are identified daparted from capital city Angkor linked to provincial cities and neighboring Kingdoms. This paper is a part of a study of Royal Road. In this paper I focused on the composition of hospitals , *Arogayasala* ,in various provinces of the country.

１．はじめに

12 世紀末，ジャヤヴァルマン 7 世王は，アンコール王朝史上，最大版図となった王国内において，幹線道「王道」を軸とした国内諸施設の再整備を行った．それらの整備の実態を明らかにすることを目的とし，既報では，「王道」に付随する石橋と宿駅の基本構成を整理した．本稿では，現地での実測データをもとに，王国内に広く設けられた施療院付属寺院の基本構成についてのべたい．

２．施療院付属寺院とその分布

施療院は，*Arogayasala*（アーロギャーシャーラ）と称され，「病人の家」の意をもつ．主に治療の施設と治癒の神（薬師如来）をまつる付属寺院から構成されている．木造であったとされる治療の施設は現存しないが，砂岩やラテライト造の付属寺院が，近年，次々に確認されている．

ジャヤヴァルマン 7 世王は，熱心な仏教徒であったとされ，それまでの施療院の再組織化に力を入れた．このことは，施療院あるいはその跡地と思われる場所で発見されている碑文から知ることができる．これらの碑文には，施療院の規則や組織の構成の他，王自らが病人の世話や，薬（薬草）の管理に関与していたこと，また，施療院の設置が王の義務であったことなどが記されている．「民の苦しみこそが王の苦しみ」という表現に象徴されるように，これらの碑文と一緒に建てられた施療院は，王の民衆救済の広宣の場であったとも考えられる．

施療院の整備は，概ね 1185 年頃までに，タ・プロム寺院に組織の中心を据え，国全土に 102 ヶ所整備された．現在，44 箇所（カンボジア：22 箇所，タイ：20 箇所，ラオス：2 箇所）が確認されているが，建築調査が行われた遺構は少ない．本稿では，伽藍の状態がよく，実測図面を作成できた 8 遺構（カンボジア）を対象とする．一部埋もれていたり崩壊箇所もある．

３．施療院付属寺院の配置

施療院付属寺院は，東西に長い矩形の敷地のほぼ中心を通る東西軸上に，「祠堂」1 基と「楼門」が配置されている．また祠堂の南東には「矩形建物」が配置され，これら 3 つの建物が，楼門の両脇からのびる「周壁」で囲繞されている．これより出入り口は東面の楼門のみとなっている．周壁の外側には，北東側に「貯池」が配置されているものもある．

このような伽藍の平面規模と平面形状，また伽藍内における祠堂の位置について検証する．まず，伽藍の規模に関しては，周壁全長の実測結果（表 1）が示すように，Pr.Krapon Chhouk と Pr.Ta Kol で約 5m の差がみられる．これより，伽藍の規模は寺院によって異なっているといえる．

次に伽藍の平面形状に関しては，各寺院において周壁の長短によらず，長辺に対する短辺の長さの比率が 1.29～1.34 とほぼ一定の数値となっている（表 1）．これより周壁の長辺と短辺の長さには相関性があるといえる．ここでは，事例数が少ないため明言はできないが，1.29～1.34 の数値は，4/3，つまり 1.33 に近似して

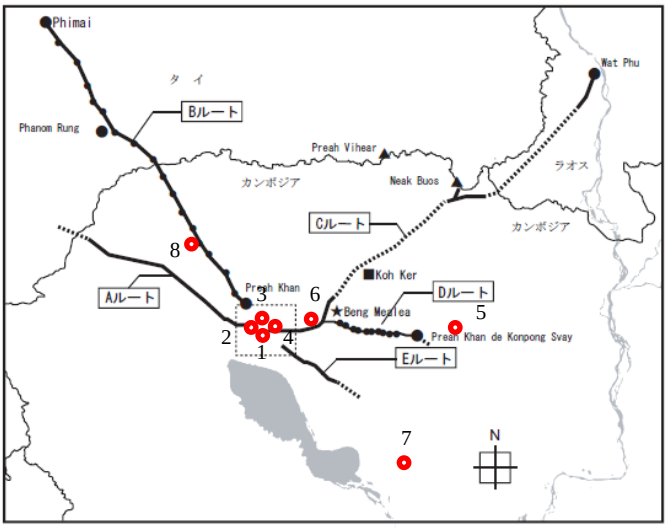

図 1.　施療院の分布　　●:施療院

1:日大・理工・教員，2:日大名誉教授

いる．このように短辺を 3，長辺を 4 とすると，斜辺が 5 となる直角三角形ができる．このような比率で伽藍を構成すると，縄張りの際，四隅において直角を容易に出すことができ，施工上，合理的であるといえる．

次に伽藍における祠堂の位置に関して，祠堂の中心から楼門の中心までの距離は各寺院で異なっている．しかし，寺院の周壁の長辺に対して，祠堂の中心から楼門の中心までの距離の比率は，２つの寺院で近似している．これより祠堂は，伽藍の規模に関わらず，伽藍全体の中での位置が決められているといえる．

４．祠堂の基本構成

伽藍の基軸上にある祠堂は，尖塔状屋蓋をもつ主室と，その前面にあるヴォールト状屋蓋の前室から構成されている．主として東側 1 方に出入り口が設けられているが，主室の 4 方が開口しているものもある[5]．それぞれ前室には窓が設けられている．主材料は，砂岩，ラテライト，それらを併用したものがある．アンコール地域の 4 寺院は砂岩造であるが，その他の地域では材料の使い方に統一性は見られない。また，装飾が施された砂岩材の中に，12 世紀以前，さらにアンコール期以前の様式の文様もみられ，近隣の古い寺院の材を転用して使用していることが分かる．

祠堂の構成は，平面と屋蓋の構成の違いから以下の２つに大別できる．一つは，主室が十字形平面で，その四方の凸の部分の奥行きが深く，その上部にそれぞれヴォールト状屋蓋がかけられ，さらにその上に尖塔がのる構成である[6～7]．もう一つは，主室が方形平面，または十字形平面の四方の凸の部分の奥行きが浅く，その上部にヴォールト状屋蓋はなく，直接尖塔屋蓋がのる構成である[1～5，8]．このように，２つの異なる構成の祠堂は，各伽藍の規模によらず，それぞれ同じ構成のものはほぼ同規模となっている（表 2）．

５．まとめ

以上，アンコールと地方都市に設けられた 8 つの施療院付属寺院は，伽藍の基本構成は共通するものの，各建物の材料の使い方は異なり，また転用材が多用されていることから，建築材は各地域で調達されたと考えられる．また，伽藍の規模は，寺院によって異なる．ただし，伽藍の平面形状に関しては，東西方向と南北方向の長さの比に相関性が見られ，施工上，合理的な比率であることを指摘した．

祠堂は伽藍の規模によらず，平面形状別にほぼ一定の寸法で構成され，各伽藍内でほぼ同じ位置に配置されている．これより，祠堂は，ほぼ統一した寸法を用いて造営するシステムが整っていたのに対し，伽藍の規模は，各地方で決められた可能性が考えられる．

地方都市において，都と同じ構成の祠堂を有する施療院付属寺院は，王を賛美する碑文とともに，地方都市を実効支配する上での拠点として機能したと考えられる．

今回は事例数が限られているため，ここでみられた手法は地方における一手法である可能性も考えられる．今後，さらに事例数を増やして検証を進めていきたい．

[参考資料]
1. Lunet de Lajonqutere,E,. 1902-11 ,*Inventaire descriptjf des monuments du Cambodge*, 3 vol., EFEO,Paris,
2.ブリュノ・ブルギエ「古代カンボジアの石橋－国土の整備あるいは統制か？」フランス極東学院報告集87 編2巻，（Bruguier, B. 2000, Les ponts en Pierre du Cambodge ancient;Amenagement ou controle du territoire? , *BEFEO 87:* pp529-551）
3. Ccedes,G.,1941, La stele du Prah Khan d'Angkor, *BEFEO* XLI :255-302.
4. ブリュノ・ダジャンス『アンコール・ワットの時代－国のかたち、人々のくらし』連合出版，2008
5. 石澤良昭『アンコール・王たちの物語』日本放送出版会，2005
6 . *Report of the survey and excavations of ancient monuments in north-eastern Thailand, part 2: 1960-1961*, Siam society's library, Fine Arts Department, Bangkok
7. 日本大学理工学部で開催の「アンコール遺跡国際シンポジウム 予稿集」（2008 年）

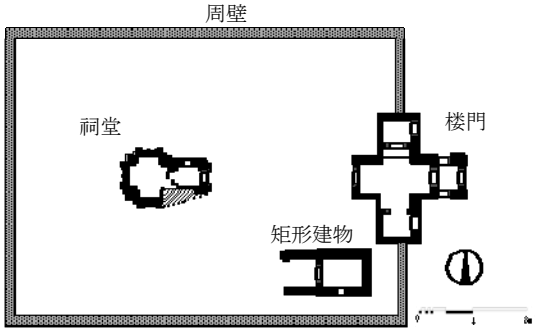

図 2.　伽藍の基本構成

表 1.　伽藍配置

	周壁全長(mm) 長辺	短辺	長辺/短辺	伽藍における東西軸上の祠堂の位置 a	周壁長辺/a
1 Pr.Ta Prohm Kel	×	×	×	21,460	×
2 Chapel of Hospital(Angkor Thom西門)	×	×	×	20,183	×
3 Pr.Tonle Snguot	×	×	×	×	×
4 Pr.Ta Kav	×	×	×	×	×
5 Pr.Krapon Chhouk	34,100	26,400	1.29	×	×
6 Pr.Daun Chand	33,850	25,920	1.31	20,240	1.67
7 Pr.Kuk Roka	×	×	×	×	×
8 Pr.Ta Kol	29,278	21,782	1.34	18,260	1.60

表 2.　祠堂の構成

	主室(mm) 東西内法	南北内法	東西外法	南北外法	前室(mm) 東西外法	南北外法
1 Pr.Ta Prohm Kel	2,098	2,490	3,243	3,270	3,243	3,270
2 Chapel of Hospital(Angkor Thom西門)	2,162	2,192	3,117	3,374	3,117	3,374
3 Pr.Tonle Snguot	2,260	2,300	3,535	3,540	3,535	3,540
4 Pr.Ta Kav	2,050	2,045	3,124	3,152	3,124	3,152
5 Pr.Krapon Chhouk	1,936	1,085	3,930	3,386	3,930	3,386
6 Pr.Daun Chand	1,270	1,240	3,770	3,830	3,770	3,830
7 Pr.Kuk Roka	1,530	1,420	3,920	3,589	3,920	3,589
8 Pr.Ta Kol	2,064	2,140	3,399	3,345	3,399	3,345